

2021.05.02. 聖書の学び  
なぜこれが聖書に書かれているのか (新約聖書:ピレモンへの手紙1~7節)  
JDファラグ牧師

おはようございます。第二礼拝へようこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝を行っています。第一礼拝は、毎週の「聖書・預言アップデート」で、聖書預言にささげています。第二礼拝は、神の御言葉全体の、一節ごとの学びです。さて、先週はテスへの手紙を終えました。今日からは、ピレモンへの手紙をはじめます。箇所は1節から7節までです。一緒に、その聖書箇所をお開き下さい。話を始める前に、オンラインで参加の皆さんにお伝えしたいことがあります。私たちには素晴らしいチームがあり、JDFarag.orgのウェブサイトのためにいくつかのことをしてくれました。その一つが、新しいサイトでの「聖書の学び」です。メニューの一番上にある「Bible Sermons」のタブから入ることができます。このように、JDFarag.orgでは、すべての教えが利用可能になっています。また、一番上のメニューバーには、「リソース」タブがあり、その下にある「サポート」を選択していただくと、「よくある質問」が掲載されている「サポートセンター」に移動します。サポートセンターには、「よくある質問」のほか、「使い方」、「検索」、「リクエスト送信」などの機能があります。しかし、ページの一番下に、赤丸で強調していますが、「新しいモバイルおよびテレビ用アプリ」へのリンクがあります。これを選択すると、このページが表示され、モバイル機器にアプリをダウンロードすることができます。Appleをお持ちの方は、iTunesのアプリストアからアプリがダウンロードできます。また、Google Playからもダウンロードできます。また、Amazonのアプリストアからもダウンロードできます。また、Roku TVをお持ちの方は、Roku Channel Storeから直接チャンネルをダウンロードしていただくことができますので、ご利用ください。ウンザリしますでしょう。一拍手「アメリカズ・モスト・ウォンテッド」のチャンネルがすぐ隣にあります、見逃すわけにはいなくなるでしょう。とにかく、主を讃えましょう。出来れば、お立ち下さいますか？ 私が読みますので、ついてきてください。無理な方は、お座りのままで結構です。まずは、1節からです。章の区切りがないことにお気づきでしょう。なぜだか分かりますよね？ 章が無いからです。そのことについては後で、少し詳しくお話ししましょう。

#### ピレモンへの手紙

1キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、私たちの愛する同労者ピレモンと、

2姉妹アッピア、私たちの戦友アルキポ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

3私たちの父なる神と、主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

4私は祈るとき、いつもあなたのことを思い、私の神に感謝しています。

5あなたが主イエスに対して抱いていて、すべての聖徒たちにも向けている、愛と信頼について聞いているからです。

6私たちの間でキリストのためになされている良い行いを、すべて知ることによって、あなたの信仰の交わりが生き生きとしたものとなりますように。

7私はあなたの愛によって多くの喜びと慰めを得ました。それは、兄弟よ、あなたによって聖徒たちが安心を得たからです。

うわあ！ 祈りましょう。もし、一緒に参加くださるなら、お願いします。

主よ、今朝の、私たちに与えられた、この御言葉に感謝します。主よ、これが私たちが今朝ここにいる理由です。私たちは、あなたが、ご自身の御言葉で、私たちの人生に語り掛けてくださるのを聞くために、ここにいるのです。そして主よ、あなたがお語りになる時、私たちは聞く耳を持ちたいのです。御言葉を受け取ることの出来る、心を持ちたいと願います。あなたがこの箇所で、私たちに見せようとしておられることを、はっきりと見る事の出来る目を持ちたいのです。

主よ、私たちのためにそれをなして下さい。私たちに語りかけ、導いてください。あなたが私たちのために用意してくださっているものを、私たちに示してください。あなたのしもべは聞いております。

主よ、お語りください、イエスの名において祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。有り難うございました。今日の学びで選んだタイトルは、実は、この質問に答えてほしいという形になっているのです。その質問とは、「なぜこれが聖書に書かれているのか？」です。奇抜なタイトルですが、良い質問ですよ？ なぜこれが聖書に書かれているのか？ つまり、たった25節の長さで、章もない。それに目を向けると、多分こうなります。誰でもそうでしょうからご心配なく。目を向けると、こんな感じで...見逃してしまいます。1ページだけなので「あっ」という感じです。見逃して、戻ってきて、そこに...ああ！ 聖書の両面を埋めることもできない、それほど短いのです。何のために？

なぜここにあるのでしょうか？ 私たちは、すべての聖書が神の靈感で書かれたものであることを知っています。ですから、ここにあるのは、理由があります。しかし、この手紙は、とてもとても短いものです。興味深いことにユダの手紙と同じように、25節で構成されています。このピレモンへの手紙と同様です。私は今、告白したいことがあります。変な目で見ないでください、そこに悪意はありません。私たちの心が、すぐに考えもつかないことに向かってしまうのは、とても興味深いと思いませんか？ 私の告白をします。私は、立ち寄る感じに考えていました。つまり、私はピレモン書を一節ごとに教えるつもりでしたが、本当は急いでヘブル書に行きたかったのです。[

笑い] え? なんて笑うんですか? しかし、神はいつもの方法で、私のペースを落とし、私の足を止めて、なぜ聖書に「ピレモンへの手紙」があるのかを教えてくださいました。そして、なんということでしょう。つまり、ここには、いっぱい詰まっているのです。ですから、私たちはじっくりと時間をかけようと思っています。これは本場で、実は今日は、1節と2節だけのつもりでした。つまり、これから見るように、最初の2節にはたくさんのことが書かれているのです。しかし、パウロからピレモンへのこの強烈な、感情的な手紙の中には、人生を変えるような多くの真実が織り込まれています。私が非常に感情的と言うとき、それは非常に感情的です。

この手紙が、私たちが信仰生活で直面する問題、いくつか例を挙げると赦しと回復、性格と評判、自分の状況を見極めることなどに関連して、どれほど豊かで充実したものであるかを、いくら強調しても、し過ぎることはないでしょう。もしよろしければ、聖霊が使徒パウロにこのピレモンへの手紙を、書かせたきっかけとなった出来事をお話したいと思います。すべては、パウロがキリストに導いたこの兄弟、ピレモンから始まりました。彼はとても裕福な人で、コロサイの町に住んでいました。そのため、彼の家には使用人がいて、その使用人の一人にオネシモという人がいました。来週の10節で、主の御心であれば彼を紹介します。しかし、問題はオネシモが主人であるピレモンから逃げ出したことから始まります。そして実は、さらに悪いことに、彼は盗みを働いた上で逃げたのです。それは、当時のローマの文化では、逃げ出した奴隷を、主人が死刑にすることができたほど、重大な問題だったのです。主の思召しで、オネシモは約2400Km離れたローマに逃げます。そして、どうやってかはわかりませんが、使徒パウロと接触することになります。オネシモは、パウロのことを知っていたのではないかと、パウロが、ローマの刑務所にいることを知っていたのではないかと、という意見もあります。オネシモが使徒パウロを探した可能性は十分にあります。彼が使徒パウロと接触した経緯を説明できるかもしれません。他の可能性もあります。それは、オネシモがローマに着いた後、再び盗みを働いて捕まった可能性です。そして、彼は刑務所に入ることになりますが、ただの刑務所ではなく、パウロがいる刑務所で、しかもその刑務所だけでなく、同じ牢屋に入ることになります。いえ、考えてみると、可能性はあります。あなたは想像できますか? 「パウロ、今日、お前と同じ房に新しい囚人が入る」「ええ本当? それはいい。」「その男に会って、福音を伝えるのが待ち遠しい。」「だって、パウロがそうしたことを知っているでしょう? そして、その新しい同居人が入って来ました。「おい、お前の名前は何か?」「オネシモです。」「ああ、そうか、何をして捕まったのだ?」「盗みです。」「あなたは何をされたのですか?」「福音を伝えたのだ。」「それで、どこから来たんだ?」「ああ、コロサイからです。」「コロサイ!! まさか!? ピレモンって知ってるか?」(笑) ねえ、神はそういうことをなさいませんか? それらは「神の導き」と呼ばれていますよね? 「ええ、ピレモンのことは知っていますよ、実はそのためにここに来たんです。」繰り返しになりますが、私たちは本当の理由は知りません。ただパウロと出会ったのは事実です。そして、パウロがオネシモをキリストに導いたことも知っています。彼は今やキリストにある兄弟となりましたが、主人から盗みを働いた逃亡奴隷でもあるため、問題が残っています。だからこそ、パウロは自分が愛してやまない大切な友人、ピレモンとの和解を図ろうとするのです。今日の箇所に入ります。パウロは、オネシモの回復と和解に関して、ピレモンに訴え始めます。今は、キリストにある兄弟です。それは、ある種のゲームチェンジャーです。そうすることで、私たちはいくつかの重要な観察をすることができます。それは、私たち自身に、いくつかの非常に重要な質問を促すものです。さて、私が見つけたそんな質問を三つ紹介します。もっと見つかるかもしれませんが。それらは、初めの七節から出てきたもので、それらのついて、よく考えてみるのがいいと思います。では早速、最初の問いです。『自分の現在の状況をどう見ているか?』

1節と2節では、テモテが使徒パウロと一緒に、ピレモンへ、この手紙を書いていることが語られています。ピレモンは二人の親愛な友人であり、彼らの同胞であり、同労者であることに気づきます。

この人たちは本当に仲が良かったのです。そして、ああ、ところで、後に主の思召しで見られるように、パウロはピレモンをキリストに導きました。どうですか? 2節では、ピレモンの妻とされるアッピアと、息子とされるアルキポについて、このように言及しています。また、彼は自宅で集会を開いていたと言われていたのですが、これもまた、彼には集会を開くだけの富と、広い家があったことを示唆しています。しかし、ここでパウロが手紙を書き始めたときに言っていることに、注目していただきたいと思います。

実際には非常に珍しく、典型的ではないのです。彼は自分のことを、イエス・キリストの囚人で、使徒でもなんでもない、イエス・キリストの囚人だと言っています。なぜでしょうか? なぜ彼はそのような言葉で始めたのでしょうか? パウロが自分のことをこう言うのは、彼が自分の状況を、正しく見て評価しているからではないでしょうか。説明します。お聞きください。パウロは、自分がキリストの囚人であって、ローマの囚人ではないことを知っています。彼は、キリストのためにそこにいるのであって、ローマのせいではありません。私たちが、親しみを込めて獄中書簡と呼んでいる手紙の中には、パウロは、「私は無実です、私は不当にここにいます」と抗議したという記述が無いのが目立ちます。いいえ、彼は抗議しているのではなく、宣教をしているのです。パウロは、神が、自分をそこに置かれたことを知っています。彼はキリストの囚人なのです。つまり、パウロの投獄.....私がこう言う時、誤解して欲しくないで、

よくお聞きください。パウロが投獄されたのは、政治的に誰が役職についているかということではなく、主権的に誰が王座についているかということなのです。もう一度言わせてください。パウロは、自分がキリストのために牢獄にいることを知っていました。主が彼をそこに置かれたのです。彼がそこにいるのは、イエス・キリスト

のためであり、自分が犯してもいない罪で、不当に訴えられたからではありません。

彼はそれを知っています。彼は状況を、そのように見えています。それは政治体制、ローマの支配、その特定の政党のせいではありません。「いや、私がここにいるのは、主が私をここに置かれたからだ。」それが理由です。ぶしつけな言い方ですが、お許しください。しかし、私たちは、逆境や迫害を、神の主権のレンズを通して見ないことで、大きな過ちを犯してしまうと思います。私たちは、自分が置かれている状況が、たとえ困難であったとしても、神がそれを許されたからだと理解したときのみ、平安を得ることができます。神がそれを許されたのです。一瞬たりとも考えてはいけません。これはある種、愚かな説明であることはわかっています。しかし、彼らがパウロを逮捕して投獄したとき、天上の神が、「いつの間にこんな事になった!？」と仰るのを想像できますか？

「え、何だって?! 君たち降りていきなさい、何があったんだ?」神がそれを許されたのです。神がそれを許されたのには理由があり、パウロはその理由を知っていたのです。あえて言えば、もし神がパウロの投獄を許されなかったら、多くの人がイエス・キリストについての救いの知識を得ることはなかったでしょう。そして、他に何が起こるか、分かりますか? 私たちの聖書には、エペソ人への手紙は無かったでしょう。私たちの聖書に、ピリピ人への手紙は無かったでしょう。私たちの聖書に、コロサイ人への手紙はありませんでした。私たちの聖書に、ピレモンへの手紙は確実に入っていませんでした。もしあなたが私のような人間であれば、そうだろうと思いますが、エペソだけ、エペソだけでも、神が長年にわたって、多くのクリスチャンの人生に用いられてきた書なのです。その一つの手紙だけで、です。もし牢獄にいなかったら...、パウロは何をしていたかわかりますか? 監禁されることもなく、遅らせられ、

止められることもなかったでしょう。彼は、キリストのために街を徘徊していたでしょう。「だから、パウロに手紙を書くように促しました。」「どうやってやればいいんだ? この男はただ気が狂ったやつだ。」

「そうだ、彼を逮捕して投獄してしまおう。」「彼には時間がある。彼には時間が十分ある。」

「その時に、パウロに、聖霊によって、このような手紙を書かせよう。」このことは、二つ目の質問につながります。それは、『先手を打って祈っているか?』これについて説明しますが、3~5節で、パウロは、いつものようにピレモンには、恵みと平安の順で、お得意の挨拶をしています。それを平安と恵みの順で、見ることは決めていないでしょう。ある人はこれらを、親しみを込めてシャム双生児と呼んでいました。この二つはこの順番で一緒になります。その理由は以下の通りです。神の恵みを受けずして、神の平安を知ることは出来ないからです。神の恵みを知らない限り、平安はありません。さらに言えば、恵みを受けていなければ、クリスチャンとしての生活を送ることはできません。なぜなら、恵みの下にいなければ、罪を犯すたびに、神の平安を得ることができないからです。それは、恵みではないからです。それは、あなたがすることではありません。主が、既にあなたの代わりに、あなたのためにしてくださったことです。全てが恵みであり、あなたは、平安を手に入れることができるのです。クリスチャン...それは最も困難な生き方です。神の恵みによって、神との良好な関係にあるという平安が得られないと、クリスチャンとしての生き方はできません。恵みと平安です。そして、ピレモンのために祈るときに、彼は、神にいつも感謝していると言い、その理由まで語っています。人への愛情と、キリストへの信仰があるからです。パウロは祈るたびに言っていますが、パウロがよく祈っていたことはご存知でしょう。パウロが、「私は祈っています」と言うとき、パウロは間違いなく祈ってます、私たちとは違います。それがどういうことか、わかっていますよね? 「ねえ、あなたのために祈るわ。」「うん、そうだね。」「知ってるだろうけど、

「ねえ、私たちはあなたのために祈ります。」「本当に?」どんな感じなんだろう? 「主よ、彼に祝福を。」

言いたいことは分かりますよね。付いてきてください、出て行かないでくださいね。外に出ようとすると、みんなに気づかれてしまいますからね。最初に読んだときには見逃してしまいそうですが、パウロは、すべてがうまくいっているように見えても、彼のために祈っていることに気づきます。私たちが祈るとしたら、それはたいてい誰かが、本当に祈る必要としているときではないでしょうか? 妻が夫のところに行って、「あなた、私たちは祈る必要があるわ」と言ったという話を思い出します。それに対して夫は、「ええッ、そんなに悪いの?」祈りは最終手段であって、最初の反応ではないということですか?

なぜ私たちは、どうしようもない時にしか祈らないように見えるのでしょうか。私たちは、困難な状況に陥ったときにしか祈りません。厳さが私たちに祈らせませす。しかし、パウロは違います。パウロは、「兄弟、あなたのことをとても愛しています。」と言っています。そして、「あなたのために祈るたびに、あなたの神の民への愛とイエス・キリストへの信仰ゆえに、神に感謝しています。」ピレモンのためには、何を祈ったのでしょうか。感謝の祈りだと思います。この兄弟をありがとうございます。彼に感謝します。中東のアラブ文化では、こんな祈りの言葉があります。「神よ、彼らを私のために、私を彼らのためにお守りください。」「パウロはピレモンのために、「私のために、彼をお守りください。」とそのような祈ったのではないのでしょうか。「私の人生にはこの兄弟が必要です、彼のために私を守ってください。」それは、どちらにも当てはまります。「先手を打って祈ること」を、考えたことはありますか?

言ってみれば、先制攻撃ですよ。攻めるんです。先手、先手を打つのです。主よ、これはイエスが私たちに教えた、

先手を打って祈る方法ではないでしょうか—

「私たちが試みにあわせないで、悪からお救いください。」(マタイ6:13)

それが先制攻撃の祈りです。それは、事前に祈ることです。神の守り、神の導きのために。感謝の祈りです。そう

やって、ピレモンのために祈っていたのです。テサロニケ人への手紙第一、5章16～18節 パウロは、「いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい」と書いています。

何？ どうすればいいんでしょう？「運転してる時は？」目は閉じないでください。ずっと祈っていられるのです。それは祈りの姿勢です。毎日、一日中、継続して祈ることです。私は、もっと頻繁に祈らなければならないと思うのですが、私は聴覚学習者ですので、コストコなどに行って、何を買わねばならないかを、大声で、自分に言い聞かせるようなことをしています。自分の声を聞かないとダメなんです。

そんな目で見ないでください。私だけではありません。知っていますよ。皆さんもそうするでしょう？

私は聴覚学習者なので、つまりそのような傾向があるので大声で祈ります。ところで、それにもメリットがありますよ。それで、私は主と話しています。主は私の友人です。主は、「私を友人と呼びなさい」と仰いました。私は、いつでも主と話すことができます。そして、ここで重要なのは、彼は、いつでも付き合ってくださいます。つまり、彼は決して忙しくはないのです。受付画面を通る必要はありません。

メッセージを残す必要もありません。いつでも何でも、彼に通じることができます。そうして一日を通して、自分に気づくのです。特に、渋滞に巻き込まれている時に。渋滞の話をするつもりはありませんので、ご安心ください。渋滞についてはもう十分に話しましたから。しかし、あなたはいつでもどこでも、すべてのことについて、主に話すことができます。絶えず祈ってください。誰かのことが頭に浮かんだら、

それは、神がその人のことを思い出させてくれたのかもしれない。マラソンのような祈りでなくていいんです。「天にまします我らの父よ…」祈りを複雑にするのはやめましょう。ただ主に語りかけるだけでよいのです。「主よ、私の兄弟姉妹を祝福してくださいますか？」「主よ、彼らは本当に辛い時を過ごしています。それで、あなたが彼らを思い起こさせてくれたのかもしれない。」「彼らのために、その状況を解決して下さいますか？」「主よ、あなたはただ彼らに恵みを与えてください。彼らを祝福してください、彼らを祝福してください、主よ。」絶えず祈ってください。祈りは、祈る人を変えと言ってもいいでしょう。それは言葉遊びです。分かりますか？ 祈りは、祈る人を変えます。あなたを変えます。ちなみに、イエスが敵のために祈りなさいと仰るのはこのためです。

「いいえ、そんなことはしません、私の敵ですから。」「いいえ、彼らのために祈り、あなたの悪口を言う人のために祈りましょう。「ああ、彼らのために祈ります、わかりました…」」「神よ、イエスの名のもとに彼らを殺したまえ！」それが私の祈りです。あなたがたを侮辱する者のため、悪口を言う者のために祈ってください。

「わかりました、でも、どうやって、どうして？」どうやって？ 最初は、簡単にはできませんよね？

あなたは、「主よ、しゅ、しゅ、しゅウ、彼を祝福して！」と始めます。でも、本当は、祝福してもらいたいと思っていないはず。あなたは、ヨナのようなことをしています。彼は、ニネベが悔い改めることを望んでいませんでした。実際、彼はそこへ行って、神が、彼らを焼き尽くすのを見ていようと考えていました。待ちきれないと、ニネベが悔い改めたので彼は実際に神に怒っていたのです。(ヨナ4:1参照)

ニネベ人は、無慈悲で邪悪で残忍で、俗悪だったことを理解しなければなりません。彼らは敵でした。

彼らが救われる？ ああ、いや、そうはいかないよ。しかし、敵のために祈るようになると、こうなります。彼らがどうしているかが、気になるようになります。そして突然、神が彼らを祝福することに目を向け、彼らに対するあなたの心を変えるのです。そして、彼らのために祈っていると、彼らに対して、あなたの心が変わるので、まもなく彼らに怒り続けることができなくなります。という事で、このことについてすぐにお話していきたいと思えます。聞いただけで、血圧が上がる名前がありますね？ しかし、その人の為に祈り、その人の名前を口にすることで、ええ、変わります、何もかも。自分が変わります。

「すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」とあります。(第一テサロニケ5:18)

私たちはいつも、神の御心を知りたいと思っていますよね。これは神の御心です。これが神の御心。これが神の御心なのです。そして、困難な状況にあっても、どんな状況にあっても、常に神に感謝することがあります。これは実は、もう一つの獄中書簡であるピリピ人への手紙 4章についての話です。実はこれが、心配事や不安事の解決策なのです。ご存知でしたか？ パウロは、何も心配しなくていい方法があると言っています。

すべてのことを祈り、どんなことでも神に感謝すれば、何も心配することはないと。(ピリピ4:6参照)

それは、神が私達をそのように設計したからです。なぜなら、"thank"の語源は "think"であり、考えれば考えるほど、自分には感謝すべきことがたくさんあることに気づくからです。そして、神に感謝しなければならないことに焦点を当て始めると、どんな状況であっても、全体の印象が変わります。それはあなたを変えます。エペソ人への手紙6章18節で、パウロは、

「あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。」と書いています。

祈りにはいろいろな種類があるということです。とりなしの祈り、あらゆる種類の祈り、請願、要求があるでしょう。「そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。」

絶えず、いつも、いつでも、毎日、昼も夜も、祈りなさいという印象がありますか？ そうです。それが理由です。決して、神が「あのJDをどうにかして祈るように仕向けよう」と言っているように想像してはいけません。私は彼を祈りの人にしよう。ところで、「神よ、私を祈りの人にして下さい」と祈ったことはありますか？ 神はその祈りに



答えてくださるので、その祈りには十分注意してください。「ちょっと待って、今、『私を祈りの人にしてください』と言ったのですか？」担当している御使い達が「いいや、そんなこと言ってないよね？」と言っている姿が目に見えかけます。「いいえ、彼はそう言いました。さあ、どうぞ。」ええ、私は今や、ひざまずいています。私は今、祈っていますよね？ 決して神が私達に祈らせている訳ではありません。それは、私達が祈るために全力を尽くすように、神が私達の人生に働いてくださることです。そして今や、祈りは最後の手段ではなく、最初の手段となります。つまり、あなたはすぐに、ほとんど自動的に、祈りに行くのです。

#### コロサイ人の手紙4章2節

「たゆみなく祈りなさい。(ここでもう一度出てきます)”感謝をもって”祈りつつ、目を覚ましていなさい。」

この重要性を強調しすぎるのが可能なのが分かりませんが、祈りは感謝をささげること、まずはそこから始めてください。そこから始めてください。「主よ、あなたに感謝します。」まず、私達が当たり前だと思っている小さな事に感謝してください。ああ、私たちは神のことを当たり前のように思っていますね？ 特にここハワイでは。ああ、私たちは多くのことを当たり前のように考えています。それは美しく神に感謝します。クアロアの家で感謝します。さえずる鳩たちに感謝します。マイナー鳥はあまり好きではありませんが彼らのためにも、あなたに感謝します。『ア—ア—！』(鳥の鳴き声)金切り声のような音がするんですよ。話がそれてしまいました。しかし、鳥に感謝しています。聞くことができることに感謝します。どうでしょうか？ そして、そのように始めると、自分の祈りに命が吹き込まれていくのがわかります。そして、何が起こるかという、私自身が経験したことなので分かるのですが。そして、どうか、私が強力な祈りの人であるかのように思われたいことを願います。つまり、私たちの中で誰が

「ああ、私は十分に祈ったよ。」と言えるでしょうか。「そうなのですか?!」もしそうであれば、その後でお会いできますか？ 私は、十分に祈ることができる人を知りませんから。というのも、本当は逆なのです。「私はもっと祈らなくてはならない。」私はもっと祈る必要があります。しかし、祈りを始めると何が起こるかという、祈りが祈りを呼ぶのです。つまり、祈れば祈るほど、あなたは祈るのです。こんな言い方はしたくないのですが、良い言い方ではありませんが、「中毒になってしまう」ということです。

これには、神経学的な説明があります。セロトニン、エンドルフィン、ドーパミンなど、神から与えられたホルモンや化学物質が体内にあります。そして、世俗的な研究にはいつもドキッとさせられます。

「瞑想は心を落ち着かせ、薬効があるという研究結果が...」私は...「ええ...そのために何百万ドルの助成金を得たのか?」という感じです。ここ(聖書)にあります。私は、それを無料で皆さんにお伝え出来ます。つまり、神の御言葉が教えてくれているのです。それが、神がお創りになった私たちの姿です。祈り。私が残りの時間を使いたいのは、この最後の1つです。その理由はすぐにお分かりいただけると思います。そして、この質問です。

『私は他の人の励みになっているのか?』

これについては、どうかご忍耐ください。私がこれを問いかける理由は、今日のクリスチャンの間で最も大きな問題の1つであると私が主張していることに通じているからです。私が言っているのは、お互いに励まし合い、愛し合い、喜び合うクリスチャンであることですが、これはどうでしょう?

「互いの心をリフレッシュさせること。」忘れることが出来ないのは非常に感情的なことで、パウロが泣いたのを知っているので、ほぼ想像できます。彼は私たちにそう伝えています。彼は男らしく泣きました。つまり、彼は泣き虫だったのです。彼がこれを書いている時、感情的になっている姿を想像します。

「ピレモン、私はあなたを本当に愛しています。あなたは私にとって個人的に、本当に励まし手となっています。あなたは励まし手です。あなたは私を励ましてくれます!」「パウロ、あなたこそ励まし手です。

あなたは私を励ましてくれます。」「いいえ、あなたが私を励ましてくれるのです。」そして彼は、「あなたは主の民の心をリフレッシュ/新鮮に(日本語訳では”安心”)させてくれます」と言っています。

私たちはこう言いますよね? 「ああ、それは爽やか/リフレッシュですね。」「爽やかだね。」「新鮮な空気だね。」それは”悪臭”との対極です。「臭い話/悪口の代わりに、あなたは新鮮な空気をもたらしてくれる。」

「あなたはとても励みになります。私はあなたの周りにいるのが好きです。あなたのそばにいたいのです。」もし、あなたが来るのが見えたら、私はあなたから逃げるのではなく、あなたのもとへ歩いていきます。私がこんな風に言っても、誰も思い浮かばないことを願います。でも、それが問題なんですよ。

そして、私たちが話しているのは、いわば直接会って話をするだけではありません。ソーシャルメディアについて話しましょう。私たちはどのような投稿をしているのでしょうか? この世のクリスチャンとして、かつてないほどに励ましが必要な時に、私たちは互いに励まし合っているのでしょうか。私たちは、喜びをもたらす人でしょうか? 私たちは人の心をリフレッシュさせているのでしょうか? これを言わなくてはなりません。メモにはないのですが、

ですから、ああ...私の言葉に恵みを加えてくださるように、私はいつも聖霊に期待しています。しかし、これは心からの言葉です。私が個人的に最も心を痛めているのは、クリスチャンがネット上で他のクリスチャンを攻撃しているのを見ることです。今朝、ここに来る途中、このことを考えていました。そして、使徒ヨハネのことを考えていました。とても愛情深く、繊細な心を持った男の話しましょう。そして彼は、まるで嘆願しているかのようです。「互いに愛し合ってください。」「お互いに愛し合ってください、ただ愛し合ってください、と。子ども同士が喧嘩をしている時、親としてどうでしょうか? それは、あなたの心を引き裂くものではないでしょうか。息子たちがまだ小さ

かった頃、よく喧嘩をしていたのを覚えています。私はそれに耐えられず、対処できませんでした。想像できますか？どれほどまでに。天の父のことを。私たちがお互いに議論し、喧嘩し、攻撃し、偽りの非難をし、キリストにある兄弟姉妹の悪口を言うとき、どうでしょうか？ 私は、それが神の心を傷つけるものだと心から信じています。ただ神の心を悲しませませす。私たちは正直になるべきだと思います。そして、自問すべきです。私は人々が一緒にいたいと思うような人間なのか？ それとも、人から避けられるような人間なのか？ 私はソーシャルメディアでブロックされるような人間なのか？

私の投稿は励ましではなく、攻撃です。私は爽やかではないです。臭いです。そして、それは私の口から絶対に出てくるべきではなく、私のソーシャルメディアにも投稿されるべきではありません。

これもまた、もう一度言わせていただきます。私の話に付き合っ下さり感謝しています。このことについて、主に私の心を探っていたかなければなりません。なぜなら、私は非常に餌に釣られやすいからです。敵はそのことを知っています。敵は私たちが聖書を知るよりも、聖書を知っています。そして、敵は、私たちがイエスの弟子として知られるためのリトマス試験紙は、お互いの愛であることを知っています。

もし、私たちがお互いに愛し合い、お互いにどのように接するかによって、人々が私たちがイエスの弟子であると知ることができるとしたら、そうであるなら、私たちが仲たがいたり、噂話をしたり、悪口を言ったり、口論や喧嘩をしたりしているなら、人々が疑問に思うのも当然ではないでしょうか？ そして間違いなく、世界はこのキリストチャンがこのキリストチャンを攻撃しているところを見ているのです。

そして、彼らを攻撃しながら、彼らに福音を伝えたいと思っているのですか？ 敵はあなたにそうさせたいのです。なぜなら、そうさせることができれば、あなたは彼の代わりに彼の汚い仕事を、彼のためにすることになるからです。彼はただ座って、ショーを見ていればいいのです。彼はあなたを自分の言いなりにしています。一方的に議論したり、喧嘩したり、ひどいことを書き込んだり、屈辱したり、キリストチャンの名を屈辱するのです。冗談でしょう？ ユーチューブには他のキリストチャンを誹謗中傷する動画がアップされています。それを基にしたミニストーリーがあります。そして繰り返しますが、私は自分の心を守らなければなりません。なぜなら、私は非常に餌にかかりやすいからです。

「なんだとー？！」「よし、やる気か？よし、やってやるぜ！」一笑一

主が「ダメだ、ダメだ、ダメだ。これは罠だ、騙されるな。」と仰っているようなものです。

「そうだけど、彼らが私について言ったことを聞きました？！」「ええ、実際に聞きました。それよりももっと酷いですよ。」「あなたが知っているのは投稿だけです。」「もっとあるのですか？」「ええ。」

「それは酷い言葉に違いない。」「あなたには考えられないほどにね。」「！！！」

そして、私たちは反撃して自分を守りたいのです。こういうのを聞いたことがあります。「もし自分で自分を守るなら、主はそうさせておく。」より良いのは、”神にあなたの守りをお任せしましょう。なぜなら、あなたよりもずっと上手にお出来になるからです。そして、もしあなたがそれをしようとすると、さらに悪化させてしまうでしょう。主に任せましょう。主に対処していただきましょう。神の民として、キリストチャンとして、ソーシャルメディアでのすべての投稿、話したすべての言葉の説明をする日が来ます。私たちはそのための説明をするのです。私はコリント人への手紙第一の3章に本当に感謝します。なぜなら、この火の中で燃える木、草、切り株が描かれているからです。これらのものはすべて、私の山は非常に大きく、おそらく皆さんのよりもずっと大きいでしょう。私の場合、燃えるまでに少し長く時間がかかりそうです。しかし、それらすべてのもの、木や草、刈り株は燃えてしまいます。私には、たくさんの木、草、刈り株があり、自分が行ったこと、言ったことで、啓発されないこと、リフレッシュされないことがたくさんあります。私は、新鮮な空気のようにあり、人々がそばにいたいと思うような、

誰のことも悪く言わない、励ましの存在であるキリストの兄弟になりたいのです。というか、誘おうとしても、彼らは行ってくれません。そういえば、私たちもやってみましたよね？「誰それはどうですか？」

「ああ、あのね、彼らはね...主を讃えましょう。彼らは私のキリストの兄弟なんです。」「いや、私は彼らに泥を塗りたいんだ。」そうですよね？しかし、彼らはそうしません。彼らは人を誹謗中傷することはありません。彼らは人々を悪く言わないでしょう。それはまた別のしもべです。彼らの心を裁いてはいけません。それは彼らと主の間のことです。「そうだな、でも、あれはどうなんだ？！」「いえ、あなたに何の関係があるのですか？」

ペテロがイエスにヨハネのことで文句を言い始めたときのことを考えます。どうやらペテロは、イエスがヨハネについて仰ったことがとても気に食わなかったようです。そして、彼はイエスに近づき、イエスを脇に連れて行きました。ピリポ・カイサリアで行ったように。(マタイ16:13 参照)

イエスが「私は十字架にかかります。」と仰ったとき、ペテロが「イエスよ、こちらに来てください。」と言って、イエスを叱ったときのことを思い出してください。「そんなことは絶対にさせません！」

そして主のお答えは、「下がれ、サタン。」(マタイ16:22, 23 参照)

時には、主が私たちにそう仰る必要があると思います。ペテロはイエスを脇に連れて行きましたが、イエスは彼に対して何とお答えになりましたか？

「あなたに何の関係があるのですか？」(ヨハネ21:21,22 参照)

「それは私と彼の間のことです。あなた何の関係があるのですか？」私はこの言葉を、聖霊の静かで小さな声で何度も聞いたことがあります。主はただこう仰るのです。「あなたに何の関係がありますか？」

「あなたは私に目を向けていなさい。あなたは彼らのことを心配しなくてよい。彼らのことは私に任せなさい。」

「そうですけど、でも...！」「いいえ、止めなさい。口を閉じて。」「あなたに何の関係がありますか？」

「...ええ、でも...！」—「止めなさい。」

そして、キーボードに近づかないように...ですね。そこには返信があります。「返信をしよう...！」(親指を下に向けるマーク👉)

お立ちください。賛美チームに上がってきてもらいます。最後に一つ、お話ししたいことがあります。

今のように、神の民である私たちが励ましとなるような時代はなかったということに同意していただけますか？

今、人々は非常に落胆していることに同意していただけますか？ 起こっているすべてのことを見れば、それは当然のことですよね？ あなたは、人々を元気づけ、力づけ、励ましたいと思いませんか？ こう言われるような人になりたいと思いませんか？「ああ、彼らは新鮮な空気なようだ。」

「彼らには香り高い、キリストの香りが漂っています。彼らのそばにいと、いつでも励まされ、力づけられ、奮い起こされます。」そして、もうひとつ。

「彼らの愛を感じます。彼らは私を愛しています。彼らは本当に私を愛しています。」それがピレモンでした。それがピレモンでした。私はピレモンになりたいのです。私はピレモンになりたいのです。あなたはどうですか？ 祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。この最初の7節だけでも、とても力強く、良い意味での罪の示しがあります。主よ、あなたが私たちの人生に語りかけてくださったように、あなたの御言葉で聞いたこのことを、聖霊によって次のレベルへと引き上げてくださるよう祈ります。どうか、主よ、私たちはこのままここを去って、ヤコブが言うように、ただあなたの御言葉を聞くだけの者となって、自分勝手な道を歩みたくはありません。鏡で自分を見た後に、立ち去って忘れてしまう人のように。(ヤコブ1:22~24)

主よ、私たちが御言葉の鏡の中であなたがご覧になるように自分自身を見たように、今ここで見たことをどうにかして、私たちの人生の中で、聖霊の力によって変化を起こすことができるよう祈ります。

なぜなら、ここにいる誰一人、オンラインで見ている人も、ピレモンになりたいと思わない人はいないと思うからです。感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージby JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記hukuinn7